

今に残る明治丸の功績

小笠原諸島の領有の結果、我が国は領海に加え広大な排他的経済水域（EEZ）を確保することとなりました。日本の領海と排他的経済水域は447万km²で、世界第6位であり、その約3分の1が東京都小笠原村に属しております。また、小笠原諸島の近海には、海底から噴出した熱水に含まれる銅などの金属沈殿物など豊富な海底資源が眠っており、その概略資源量は無尽蔵とも言われています。さらに、広大なEEZには豊かな水産資源も併せ期待されます。

加えて、2011年6月には、100に及ぶ固有種の貴重な動植物と美しい自然が評価され、小笠原は世界自然遺産に登録されました。

明治丸は小笠原諸島領有を通じて、日本に大きな宝と夢をもたらしたのです。



日本の領海等概念図（海上保安庁海洋情報部ホームページより）

※延長大陸棚：排他的経済水域及び大陸棚に関する法律第2条第2号が規定する海域

この資料は明治丸募金委員会により2011年10月に作成された資料をもとに作成したものです。

参考文献：

「歴史の語る小笠原島」大熊良一著

南方 同胞援護会発行

「小笠原島要録」小花作助著

小笠原諸島史研究会発行

上甲板

主甲板

下船

乗船

UP

DOWN

汽罐室開口跡

機関室開口跡

配膳室

順路

外観

船首部にはバウスプリットが突き出ており、甲板上には3本のマストが空にそびえています。前から、フォア・マスト、メイン・マスト、ミズン・マストでそれぞれに5本のヤードがかんざしのように並んでいます。船尾飾り、角窓も建造当時のものに復元されました。

御座所

公室、寝室、浴室の3室続きとなっており、壁面は板絵に飾られています。この板絵は、戦後米軍に接収されたときに塗られたペンキを丹念に落として修復されました。

サロン

柱の頭部には若草模様を描かれていて、そのいくつかは照明灯になっています。マホガニーのテーブルや大理石のカップボードなど、ロイヤルシップにふさわしい豪華なつくりです。